

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600094		
法人名	社会福祉法人 慧誠会		
事業所名	帯広けいせい苑グループホーム はるか(1階)		
所在地	帯広市西18条南2丁目6-4		
自己評価作成日	平成27年10月20日	評価結果市町村受理日	平成 28 年 1 月 27 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0194600094-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内
訪問調査日	平成27年12月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の重度化に伴い、心身機能の変化があり看取り対象者の対応を整えているところです。地域との交流を意識して、初の試みとして「青空サロン」と名付け『かき氷』を開催し、多くの方に足を運んで頂く事ができました。これからも各専門職、関係医療機関等と協力し、今の状態に対し必要なケアを見極め、対応させて頂き、健康に過ごして頂く事のほか、同じグループホームの入居者同士、また、併設の施設をご利用の方との交流が盛んに行われる事で、心が動き活動性が増す、楽しい生活を送れる馴染みの関係の構築を目指しています。
・「個別の日」という日を設け、個々の嗜好に沿ったおやつ作りや、外食、買い物等や季節を感じる外出の提供に努めています。地域での暮らしを意識して、サロンへの外出を継続しているところです。利用者にとって楽しみのなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は静かな住宅街にあり、同じ建物内に同法人の小規模多機能ホーム及び介護支援事業所が併設され行事、災害対策等で連携し相乗効果をあげている。当法人は総合老人福祉施設を運営し、情報交換を綿密に行い事例を共有しながら質の高いケアを心がけている。施設長が永年全国組織の副理事長を務め、帯広市を始め十勝管内多くのグループホームがある中でリード的事业所と言っても過言ではない。職員は常に利用者の事を考え、個々人の体調に合わせ、レクリエーションを兼ねた運動(体操、ゲーム、散歩など)で、リハビリを取り入れて、体調が悪くならないよう気をつけている。利用者は、「青空サロン」などで地域住民と交流し、事業所行事に地域住民が参加して相互に交流している。「個別の日」を設けて利用者個々の思いに合わせ、外食、買物、散歩などを楽しめるよう支援している。職員の人材育成にも努め、重度化に対応する指針の見直しや取り組みが高く評価される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念・施設理念を踏まえた事業計画を作成し、その意義を共有しつつ事業の実践を行っている。また、施設理念をより実際の業務に浸透させていくために法人施設全体で研修会を行っている。	独自の事業所理念があり、会議などで理念の周知と法人全体で企画する研修会を実施して地域密着の重要性を理解して取組んでいる。職員は基本理念のもとに、利用者一人ひとりを尊重したケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事に参加している(古紙回収、河川の掃除等)。はるかで行っている行事、敬老会・感謝祭等では町内の多数の方に参加頂き交流している。避難訓練にも参加頂いている。ご近所からお花を頂き飾ったり、今年度は、かき氷をお知らせし、子供たちが来てくれた。	地域の一員として、古紙回収、河川清掃などの地域の行事には積極的に参加し、「青空サロン」で地域住民との交流を図っている。事業所行事へ地域住民が参加して交流し、詐欺対策の学習会を開催して地域に貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議にて地域包括支援センターや老人会、町内会等と情報交換を行いながら、地域の現状や施設が地域に出来る事を共有している。今年度は詐欺対策の学習会を開催した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議で情報交換を行い、事業計画、防火活動、利用者の生活の様子報告を行っている。生活へのアドバイスや助言を取り入れている。	地域包括支援センター、町内会、老人会、家族代表、知見者などが参加して年6回開催し、現状報告、活動状況報告、運営に関する提案などが協議され、意見、要望を聞いて運営に反映させている。会議ばかりでなく相談を受ける事もある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議委員としてに市地域包括支援センター・社会福祉士が参加している、また施設広報誌を市介護保険課に送付する、市消防との地域合同防災訓練の実施。又、社会福祉協議会に協力を頂き、地域サロンへの参加を行った。	行政とは、運営推進会議参加時に情報、指導を得ている。広報誌を市介護保険課に送付し事業所の現状を伝え、市消防との地域合同防災訓練を実施している。又、社会福祉協議会の協力を得て、地域サロンへの参加を行うなど行政と協力を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設でマニュアルを作成し全職員に配布しています。身体拘束に当たらないよう対応を検証し朝のミーティングや各会議等を利用し上司を交え確認を行っている。	マニュアルを作成し勉強会を実施して、拘束をしないケアに対する理解が出来ている。利用者の身体を保護するため、人感センサーやセンサーマットを活用している。玄関から外出したい動作を見たら、それを受け入れて同行外出をしている。利用者に自然体で接している。安全のため、玄関は夜間施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議等にて研修報告を聞き、虐待防止の周知を行っています。日常の介護の中で虐待が無い職員間でのケアの状況の確認や上司への報告、事例検討会を行い全職員での虐待防止の取り組みを行っている。		

帯広けいせい苑グループホーム はるか(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市民後見の実習受け入れを通し制度を学ぶ機会を取り入れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書、個人情報保護等について、ご本人、御家族に十分な説明を行い、理解同意を頂いてから契約を行っている。定期的に内容の検討を行っている。今年度短期入所導入に伴い重要事項を見直し同意頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や各行事に家族代表に参加して頂き意見を頂いている。又運営に関する課題等にも意見を頂き取り入れている。面会時や行事の機会に随時意見、要望を聞かせて頂いています。	日常のコミュニケーションから利用者の意向の把握に努め、家族とは運営推進会議、行事等の参加時、面会時には意見、要望などを得るよう努めて運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各事業所ごとの会議や役職会議、統括会議を行いそれぞれ会議で得た情報の伝達、状況把握を行い、運営に関わる提案の機会を持ち検討を行っている。	管理者は面接を行うなど折りに触れて職員からその思いを聞いている。又、会議を通じて職員意見・提案も受け入れている。例えば、引継ぎのあり方、休日の取り方の改善、朝の申し送り、挨拶・声掛け運動に対する提案などがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入しスタッフ個々の目標達成の支援のために面接を行い日常的なサポートを行っている。研修やOJTを活かし事業所全体で取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度を導入し、日常業務を通じスタッフ個々に合った育成を行っています。又、年間事業計画に施設内研修や施設外研修を計画しており順次職員が研修を受けている。OJT取り組み個々のレベルアップを目指している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム研修、他事業主催の研修に参加し、ネットワーク作りや知識向上の機会を持っています。又、はるかでの行事の際には包括支援センターにも協力を頂き交流している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に面接し、本人、ご家族、他関係機関から生活歴などの情報を頂き、関係づくりに活かしている。又、本人にとって不安な事や要望を聞いて、総合的なアセスメントをしながら、必要なケアを実施し、関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に施設内をみて頂きその際、家族と話をする場を設け不安なことや要望を聞いている。コミュニケーションを図り安心してサービスを受けられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族、互いの生活は今どのような状況かの把握と、今何が必要かをグループホーム職員はもとより、全職員で考え、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事やおやつメニュー、レク等、可能な限り利用者自身に選択をして頂くように促し、活躍して頂く環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活状況や体調変化を随時お知らせし、生活に対する意向を確認しケアに反映させている。行事等、一緒に楽しむ機会をつくり通院にも協力頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みのお店など、社会資源に関しても継続的に利用できるよう支援に努めている。地域資源のサロンへの外出が習慣化され、生活の楽しみになっている。	利用者との日頃の会話の中から馴染の場所や思い出の場所を把握する様に努めている。毎月2回地域のサロンが開設されているが、参加をするごとに馴染みの関係が出来て喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団や少人数での外出や、楽しみを通じて関係調整に努めている。また、同一ホールに留まらず、併設施設等を利用している方との交流も盛んに行われている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病状の急変や長期入院の為に、サービス利用が途絶えた際であっても、本人、家族の希望に近い形のサービスの提案や申請支援を対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回面接から入居生活を送る中で、直接的に本人、家族から聞き取ることが困難な場合であっても、過去、現在のモニタリング、アセスメントをもとに意向や思いの把握に努めている。	日々のかかわりの中で思いや意向をくみ取っている。観察のなかから把握できた意向を記録に残して職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、これまでの生活の様子をお話して頂ける範囲でお聞きし、入所後も随時情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況に関しては、個別の様子を記録に残し、定期的なモニタリングで振り返り、それをチーム会議にて共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のモニタリングやチーム会議を課題の抽出と検討の場とし、本人の意向はもとより、家族や他職種からの意見も取り入れた介護計画の作成に努めている。	家族や利用者の意向を取り入れながら、モニタリングや会議で出た意見を基に、6ヶ月で見直して介護計画を作成し家族の承認を得ている。また、特段の体調変化が見られるときには随時対応して、常に現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートを作り利用者の状態変化やグループホーム内の出来事を職員間で共有し必要に応じてケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族を含めた一人ひとりのニーズに対し、どうすればそれを可能に出来るかを考え対応している。また、併設の多機能ホームや居宅支援事業所と協力しながら取り組んで知る。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域、事業所、互いが行事や会合へ参加し合う事で、交流や互いの役割を確認する事等、この地域を共に考えていける関係作りに努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの医療機関との関係も考慮しつつ、本人と家族が納得のできる適切な医療を受けられるよう、医療機関の移行の提案など、支援している。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるよう支援している。協力医療機関がかかりつけ医であり、適切な医療支援を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調の変化、通院時は通院記録にて情報を共有している。少しでもいつもと違う事があればすぐに看護職員に報告し指示を仰いでいる。通院が必要であれば、すぐに対応する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設での様子を伝え、入院後も面会やご家族との電話で状況把握に努めている。ムンテラにも必ず参加し、退院後も緊急時に備えた関係作りを心掛けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し、医行為が増えてた場合、対応が難しい事を説明させて頂いているが、出来る限り今ある馴染みの環境で暮らし続けられるよう家族、医療機関と連携し、支援している。医師の話と一緒に聞き、要望の確認をこまめに行っている。	契約時、利用者、家族に「重度化した場合における対応に係わる指針」に基づき事業所が出来ることを説明し納得してもらっている。事業所は、現在90歳台の利用者が7割を超えている事から、看取りについて積極的に取り組む必要を感じている。	事業所が定めている「重度化に関わる指針」に基づいて、職員の「チームづくり」から始めて、チームとして何に取り組むかを学習・理解しながら、看取りの実践に向けて常にレベルアップを図ることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、各ホールに置いている。それを元に対応となっているが、応急手当や初期対応に関しては全員実践できるかを課題としてデモンストレーションを行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中想定・夜間想定とし年2回の避難訓練を実施している。また、避難訓練時には地域の方々にもお声掛けしご参加頂き、日頃からも関わりを持ち関係を深めながら災害時のご協力とご理解を頂いている。	日中と夜間を想定して年2回避難訓練を実施している。運営推進会議出席者のほか、災害対策には地域住民の協力が不可欠だと考え、地域住民にも参加を呼びかけた結果、住民参加に繋がった。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、プライバシーを大切にしていくという意識を持って接している。常に言葉づかいを職員間でも注意し合いながら接するように心がけている。	その人に合わせたケアに努め、言葉かけは尊厳を大切にしていかに接している。プライバシー保護のため居室への出入りに留意し、トイレ使用に際しては特にプライバシーと尊厳を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時々で何を考えているのか、表出するのが難しい方であるならば、選択肢を用意する等し、自己決定の尊重に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの日課はあるが、その時々思い等を優先し、その時に対応出来る様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理容を利用したり、長年通っている馴染みの美容室への外出を行っている。また、外出時にお化粧をしたり定期的な顔そり・爪切りの支援をさせて頂いている。		

帯広けいせい苑グループホーム はるか(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のテーブル拭きや、おしぼり準備、盛り付けやおやつ作り、米とぎ等、利用者が役割を持って行っている。食後は職員と一緒に下膳、食器洗いにも取り組んでいる。	利用者は職員と一緒に、盛り付けや米とぎ、90歳の利用者が包丁を握って調理などできることを行っている。職員と一緒に食卓を囲み、楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1500mlを目標水分とし、記録に残しながら職員同士声を掛け合い、その方に応じた水分形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけ、誘導を行っている。往診に来て頂いている歯科医、衛生士の助言のもと、個々の状態に合わせたケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムや尿量を把握しながらトイレ誘導を行っている。パットの種類に関しても、個人の変化を職員間で情報交換しながら合った用品を検討し、変える等の工夫をしている。	個々の排泄パターンを表情、態度などから把握し、適時にさりげなくトイレに誘導し、排泄の自立に繋げている。トイレ誘導時、人前では声掛けをしないでサラリと誘導する。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量と排便の有無を毎日チェックし、極力下剤は使用せず、主食に食物繊維を加えたり朝に牛乳の摂取、乳製品、オリーブオイル、きなこを勧めたり、運動(歩行)を働きかける事で予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限り利用者の希望に沿って入浴して頂いている。一人週2～3回は入浴して頂いています。又、車いす浴も状態に応じて行っている。	基本的に事業所が定めた日時と回数で、利用者の希望に沿った入浴を行っている。車椅子利用の入浴設備があるので該当する利用者が安全・安心に入浴できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中お元気に活動(体操・レクリエーション・外出等)出来るよう体を動かす時間と個人の体調に合わせて休息時間を設けています。心地良い疲れにより夜間の安眠に繋がっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋と往診記録(通院記録)をまとめたファイルを活用し、把握に努めている。看護師や医療機関と相談しながら、服薬の支援を行っている。指示に基づき便秘の方には頓服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事やレク等、施設内に留まらず、楽しみを求め、外出の機会を作っている。一人一人に個別の日を設け、その方に合わせた楽しみを提供できるよう心がけている。		

帯広けいせい苑グループホーム はるか(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者一人一人に楽しみを持てる様に散歩や外出等個別での活動を実施。更に共通の楽しみや地域との繋がりを大切にする為、サロンへの定期外出を支援している。	ストレス解消や活き活きた暮らしを送るために、日常の散歩のほか、買物、外食など外出の機会をつくり大事にしている。毎月2回開催されている地域のサロンへ利用者は楽しんで参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金はさせて頂いてないが通院や買い物等家族に確認して職員が立て替えて行っている。お金の不安を抱く利用者には、「事前に頂いている」と職員が共通して返答し納得頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や馴染みの人との関係を生活の中で大切にしている。電話や手紙で近況を伝え、利用者からの要望がある時には適時電話をかけてお話しして頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の体調に影響しないよう、ホール内の空間の温度・湿度調節、整理整頓や清潔を保つ様心掛けています。又、四季の変化や時々のイベントを感じて頂けるようにホールへ飾りつけている。	居間兼食堂は大変広くて心地よい空間である。大型テレビと皆で座れるソファがあり自由に寛げる。冬季間の湿度の保持に心がけ、こまめに調節している。花見やクリスマスなど季節行事の飾りつけをして、利用者にもその時々の季節を感じてもらえるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろぎのリビングと食卓を囲む空間がある。双方、個々になじみの居場所がある。利用者同士の関係性を見ながら考慮しながら会議で検討し気持ちよく過ごせる居場所の提供に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の思いや、ご家族の意向を汲み、家具の配置や施設での思い出の写真を飾っています。また、気持ちよく安全に生活できる様に配慮しています。	各居室とも掃除が行き届いていて清潔である。思い出の写真や好みの飾り付けがなされて、その人らしい居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の力に応じた生活を実現できるよう空間のレイアウトには工夫をし、ご自身で出来る事、やりたいことを安全に、かつ自信を持って行える様に支援している。		